

よえもん



論語から学ぼう
(記念館の玄関前に掲示しています)

《 第69号 》 (2020年10月発行)

佐藤一斎
藤樹書院を訪ねて200年!

シリーズ
よえもん



佐藤一斎は22歳のとき、昌平坂にある江戸幕府の学問所に入学し34歳のとき、その塾長になりました。一斎は朱子学を教える立場にありましたが、陽明学にも強い関心を持っていました。そのことは、文政4年(1821年)8月、一斎が50歳のとき、京都への先祖のお墓参りの途中に、藤樹書院を訪れていることから、うかがえます。70歳のとき、幕府の最高教育機関である昌平坂学問所の教官になりました。これは今でいうと、東京大学の学長にあたります。

88歳で亡くなりましたが、佐久間象山・山田方谷など3千人もの門人がいたとされており、江戸時代末期から明治維新にかけての時代に、大きく影響を与えた儒学者といえます。



七言律詩 佐藤一斎筆
藤樹書院所蔵



木曾街道六拾九次之内「鳥居本」
国立国会図書館デジタルコレクション



移動ルート想像図(磨針峠→米原湊→船木村→藤樹書院)

「論語」衛靈公第十五 書 淵田瑞穂さん

人にして遠き
慮無ければ
必ず近き憂有り

「目の前のことばかりに集中して、先々のことを考えずにいたら、身近なところで思いがけない心配ごとがおこる。」という意味です。

江戸時代に書かれた「産語」という本に、はあはあと息をはき、うずくまりながら松の苗を植える老人に出会われた殿様の話が書かれています。殿様が「なぜそんなに苦勞してまで植えるのか。」と問いかけると、老人は「松の木が育つには100年以上かかります。わたしが死んだ後、子や孫たちの役に立つようにと思い植えているのです。」と答えました。

* 記念館だより *

中江藤樹記念館、秋恒例の主催事業【「論語」入門講座】のご案内です。10月17日、31日、11月7日、21日、12月5日の5日間いずれも土曜日午後3時15分から実施します。申込の締切は10月9日(金)で授業料は1,500円です。講師は元高校教員の駒井清行さん(高島万葉の会講師)で、毎年「論語」の「基本のキ」からお教えくださっています。市内在住か市内へ通勤、通学の高校生以上の方ならどなたでも受講頂けます。皆さんのご参加お待ちしております。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330